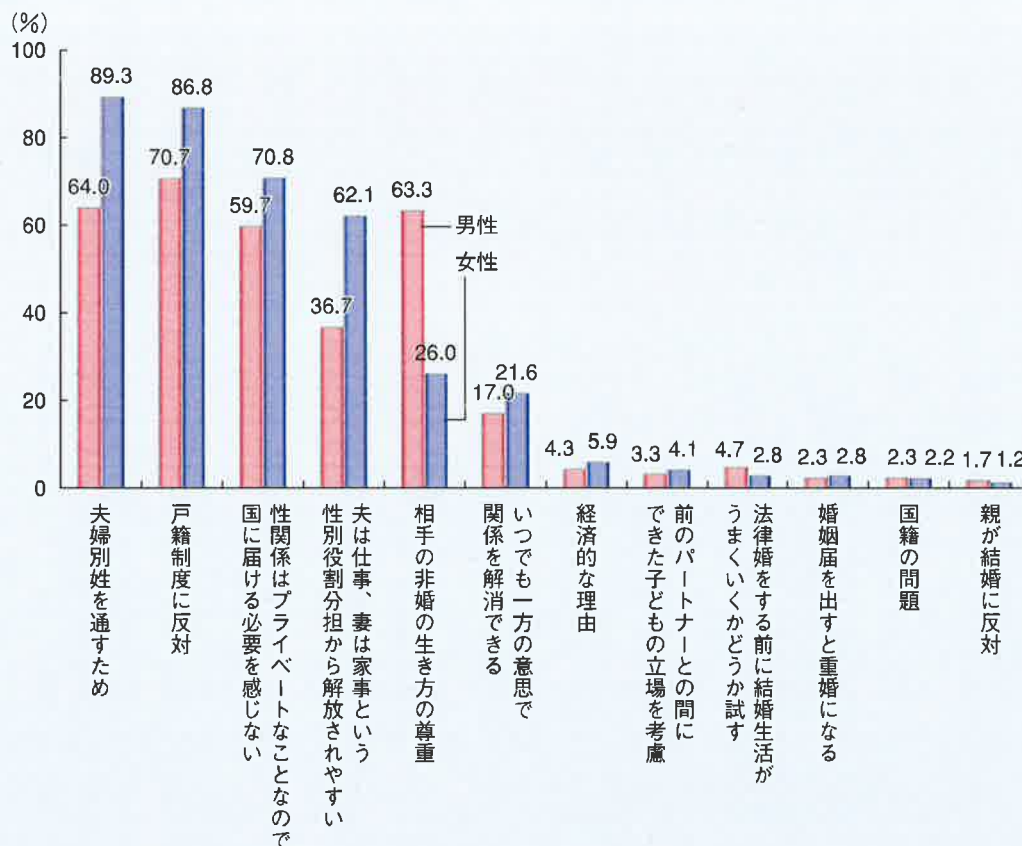


別役割分担から解放されやすい」が続く（第1-補1-9図）。男性においても女性と同様の傾向が見られるが、特徴的なのは「相手の非婚の生き方の尊重」を回答した割合が高い点である。事実婚カップルにおいては、現状の結婚や戸籍制度などの社会制度についての価値観の多様化を反映して事実婚を選択しているとともに、男性にはむしろパートナーである女性の意志に配慮して事実婚を選択している場合もあることが分かる。また、同じ調査によると、家庭内での生活費については、男女同じくらいに負担すると回答している割合が最も高いことから、事実婚の女性には経済力があることが特徴であるとも分析されている。

こうした事実婚を選択している特に女性たちの意識の変化は、従来の世帯単位から個人単位を重視する社会の流れへも反映されており、我が国においても次第に事実婚を婚姻に準ずるものとする考え方が採り入れられ始めている。

第1-補1-9図 事実婚を選択する理由には結婚制度への違和感が見られる



(備考) 1. 善積京子「〈近代家族〉を超える」(1997年)により作成。
 2. 善積京子氏が行った「非婚カップル調査」において、「婚姻届を出さないでカップルで生活するようになった理由」として、それぞれの項目(A~L)について、『あてはまる』『あてはまらない』のいずれかに、○をつけて下さい」と尋ねた問に対して、「あてはまる」と回答した人の割合。